

- 委員長挨拶とご報告… 1・2
- HCTC認定研修のご案内… 2
- 特集記事・関連記事… 3・4 (ドナーの権利擁護)
- 認定HCTC在籍施設紹介… 5
- HCTC相談窓口より Q & A … 6
- お知らせ… 6

ご挨拶

日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植コーディネーター委員会
委員長 矢野 真吾



2022年4月から委員長を拝命しました東京慈恵会医科大学腫瘍・血液内科の矢野です。秋山先生、一戸先生に続き3代目の委員長となります。HCTC委員の皆さまは使命感を持って活動しており、とても身の引き締まる思いです。

私は学生の時より造血器悪性腫瘍の治療に興味をもち、造血細胞移植の診療に携わりたいと考えていました。初めて同種造血細胞移植患者さんの主治医になったときの緊張感は今でも忘れません。当時は同種移植の治療や合併症に関する成書はあったのですがドナー支援に対する指南書はなく手探りで進めていました。今はHCTC委員会の活動を通じ、HCTCの需要と重要性について改めて認識しております。

HCTCは同種移植医療を円滑に遂行するために患者、ドナー、家族の方を支援する専門職で、当委員会の役割はHCTCの育成と普及と考えています。HCTC委員の皆さまと協同で認定講習等を提供し、質の高いHCTCの養成に努めていく所存です。どうぞよろしくお願い致します。

認定講習

認定講習 I・IIの受講は、認定申請の必須要件です。

認定講習 I 開催報告



7月9日オンライン講習にて認定講習 I が開催されました。あらかじめE-learningで基礎を学ばれた56名の方が受講しました。午前中は倫理の講義、面接技術の講義と演習、午後はHCTC活動紹介の後、血縁コーディネートについて事前に出されていた課題に沿って、グループに分かれ活発な意見交換がなされました。

途中、受講者同士の交流の時間も設けられ「同じ境遇の方と話し合うことができ励みになった」「すぐに実践で活用できる」などの感想をいただきました。

認定講習 II 開催報告



11月18.19日の2日間にわたりZOOMによるオンライン方式で開催され、27名の方が受講されました。

患者コーディネート、血縁ドナーコーディネートそれぞれの支援について、ロールプレイやグループワークで実務を織り交ぜながら、意見を出し合い考えを深めました。

また『小児ドナーの適格性について』や『HCTC実務のマナー講習』など初めて盛り込まれた内容もあり、大変実りのある2日間となりました。

HCTC認定更新セミナー 開催報告

『小児/AYA患者の移植・ドナーコーディネート・長期フォローアップをめぐる諸問題』

講師：大阪市立総合医療センター 小児血液腫瘍科 岡田恵子先生

Live配信と録画配信合わせて135名が受講しました。小児・AYA世代のがん診療における基礎知識から特有の課題をどのように診療・ケアするか事例を通して具体的にご講演いただきました。発症が非特異的であること、進行スピードが速い事も教えて頂き、早期に専門家に連携する事の重要性を再認識しました。移植においては、きょうだいドナーと両親への支援、患者に対しての移植前中後の長期的な継続したケアの必要性を事例を通して教えて頂きました。小児・AYAがんの専門診療科がない施設においても、小児・AYA期にがん治療や移植を経験した患者へのケアを引き継ぐ事があり、そのような際にも、本セミナーで得た学びを活かしていきたいという感想を受講者の方から頂きました。

HCTCラウンジ

2022年5月12日(木)16時～17時 Web開催

- 「第一部 HCTC委員会活動報告会」
- 「第二部 グループミーティング」

グループミーティングでは、HCTCおよびHCTCを目指している方にご参加いただき、日頃の思いはもちろん、不安や悩みを共有し、参加者同士が交流や情報交換を行うことで見識を広げると共に、参加者相互のつながりを図ることができました。認定取得の有無に関わらないグループ分けと、テーマは決めずに参加者から募った内容に沿って様々なことを話し合い、大変有意義な時間となりました。

HCTCワークショップ

2022年5月14日(日) 14時30分～16時

テーマ

「遠方ドナーの支援について/他施設との連携のあり方」

遠方ドナーへの介入では、HLA検査や採取後健診など他施設と連携して対応する必要があることから、地域の特徴を考慮した調整や連携、ドナーの権利擁護への取り組みについて4名の演者の方にご講演をいただきました。施設間の密な連携がドナーの権利擁護を強固たるものにするなど、遠方ドナーの適切なコーディネートについて学びを深めることができました。



HCTC認定研修のご案内

HCTC認定研修制度とは、HCTCとしての実務を開始した方が、認定HCTCにふさわしい技能を適切な指導チームのもと、より短期間で修得することを目的として、HCTC委員会が指定する研修施設あるいは造血幹細胞移植推進拠点病院、造血幹細胞移植推進地域拠点病院で行われる通算20日以上研修事業です。

- * 研修施設において、指導者のもとにコーディネートを行った事例
→認定HCTCの資格申請時の実務経験数としてみなされます。
- * 研修を修了した方
→認定HCTCの資格取得に必要な実務経験数が、患者・ドナー共に各10件以上に緩和されます。
(小児移植認定HCTC資格の場合は患者・ドナー各5件以上)
- * カテゴリー3の移植診療科でHCTC業務を行う場合
→認定研修の修了と患者・ドナー各5件の実務経験で申請可能な「LVC認定HCTC」が新設されました。

2022年5月運用開始

HCTC認定制度を受講するには下記の参加要件があります。

- * HCTC認定講習Iを修了していること
 - * HCTCとして患者事例 およびドナー事例それぞれ2件以上のコーディネート経験を有すること
- 詳細は学会HPでご確認ください。

https://www.jstct.or.jp/modules/occupation/index.php?content_id=65



受講生の声

聖路加国際病院

HCTC 本間 祥子様

今年の6月、約1ヶ月間HCTC認定研修を受講しました。研修では、研修施設のHCTCと行動を共にしながらコーディネーターの実務を経験することができます。これまでの自分のコーディネートプロセスを振り返りつつ、新たな視点や考え方を直接肌で感じながら習得できる大変貴重な機会となりました。また、他職種とコミュニケーションをとる場面も数多く経験し、移植チームの中でのHCTCのはたらきや在り方も学ぶことが出来ました。認定研修はHCTC業務の難しさややりがいを感じながら、スキルアップもできる大変魅力的な制度です。学んだこと・考えたことは必ずその後の活動に活かすことができると感じています。これから、受講される方・受講を考え中の方はぜひ！挑戦して頂きたいと思えます。最後になりますが、研修を受け入れて下さった虎の門病院の血液内科の皆様様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

指導者の声

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

HCTC 武田 みずほ様

今夏に隣県より初めて認定研修生1名を受け入れました。折りしも研修を始めた7月より新型コロナ第7派が到来！研修のボルテージの高まりと比例するかのよう感染者数も日々最多を更新、ついに全国感染者数は過去最高の記録となってしまいました。そしてピークが過ぎた頃、無事に研修終了となり研修生と共に安堵したことが1番に思い出されます。

今回、研修生の勤務の関係で連続20日間の研修は難しく約2か月間の中で5日間連続しての研修を4回実施し計20日間としました。研修計画当初は日程的に不確実な要素の多いコーディネートを研修日にどう合わせていこうかと悩みもありましたがそんな悩みは研修生の温かい気持ちと施設内の他職種のサポートのお陰ですぐに解消することが出来ました。まさに「案ずるより産むが易し」を実感し、私自身もHCTCとしての初心を思い出すことができた貴重な経験となりました。関係者の皆様お世話になりありがとうございました。

ドナーの権利擁護を考える

架空事例

患者 Aさん 37歳 女性 独身（両親と3人暮らし）
疾患名：MDS overt AML 治療計画：寛解導入療法中、長期的には同種移植の方針
経済情報：調理師（休職中、傷病手当金受給中）
家族：父（72歳）、母（69歳）、兄（39歳）

ドナー候補者 Bさん Aさんの兄 39歳
家族：妻（38歳）長女（5歳）長男（6ヶ月）の4人暮らし
居住地：実家から徒歩10分 仕事：工場勤務 交代制（休み不定）

Aさんは移植適応なので
コーディネートを願います。



Aさんに事前の患者対応（HCTC標準業務リスト参照）を行い、血縁ドナーコーディネイト開始の同意を得る。その後、母よりBさんの携帯番号、連絡のつきやすい時間帯の連絡があり、Bさんと面談を行う運びとなる。

Bさんへ電話

HCTC自己紹介と以下を確認
✓ Aさんの病気や移植をどのように聞いているか
✓ 健康面について
✓ 日程調整
✓ 家族や重要他者の同席希望・有無
→面談時、携帯を利用して妻のリモート参加を依頼する

よろしくお願いします。
話は聞いています。
病気とかはないです。
明日の午後であれば時間を作れます。妻は小さな子供がいるので病院へは行けないと思います。



面談日（妻は携帯をつないでリモートで参加）

面談で確認したいこと…

電話でも確認したことを再度確認し、
以下は追加確認項目
✓ ご両親からどのように聞いているか
✓ 職場について
✓ Aさんとの関係について
✓ 来院する事をAさんに伝えているか
✓ 妻の意向

Bさんへの説明事項

- HLA検査の方法
- HLAの一致する確率
- 一致した場合の採取方法
- スケジュール、入院期間
- 骨髄採取・末梢血幹細胞採取の安全性と合併症
- 代替ドナーと移植方法
- 家族の同意、提供意思をもってHLA検査を受けてほしい

母から白血病だと聞いています。
移植が必要だから検査してみて、と言われました。
強くお願いされたわけではありません。
職場にはまだ話していません。
今まで大きな病気をしたこともないです。
この前の健診でも指摘事項はありませんでした。
採血で具合が悪くなってこともありません。
妹とは近くに住んでますが、生活の時間帯が違うせいかあまり会わないです。
元々、あまり話す兄妹ではなくて、多分2年くらい話をしていません。
別に喧嘩をしたり、仲が悪いわけではないですけど、良いわけでもないです。

義妹を助きたい気持ちはあります。
でも、夫がドナーになることは正直心配です。
話を聞いたばかりなので、どう考えたらいいのか。

奥様の心配する気持ちもよくわかります。
検査を受ける前に、Bさんの意思と家族の同意を確認する必要がありますので、一度持ち帰っていただき、ご家族や職場と相談して検査を受けるかどうか決めてください。

今日は検査をするために来たんです。
病院まで片道1時間以上かかります。
とりあえず今日検査をしてしまいたい。
検査結果が出るまでの間に、妻や職場と相談してもいいですよ。

追加説明

入院期間も約1週間、その前後にも健診のための来院が必要であり、妻や職場と相談をしてから決めてほしい。
今日の説明内容を振り返りじっくり考えてほしい。
HLA検査を実施後の提供意思の撤回はBさんにもAさんにも負担になる。
来院が負担であればHLA検査は自宅で実施する事も可能である。

検査前に妻の同意も必要なんですね。
職場は大丈夫だと思いますけど一応報告します。

提供意思なし



採取のリスクなど思ったより妻の不安が大きかったです。妻は育児も大変で精神的にも不安定な様子があるので、今はこれ以上負担をかけたくないです。他の方法でも移植出来ると聞いたので、そちらでお願いできればと思います。

しっかり相談して決めて下さりありがとうございます。
ご家族で相談して、決めて下さった意思決定を尊重します。Aさんにどのように伝えましょうか。



どのように伝えてもらったらいですか。妹のことは心配していて、病気を治して欲しいと思っています。ドナーにはなれないけど、家族として手伝えることがあれば手伝いたいです。

Aさんへは、ドナーの適格性がなかったとお伝えいたします。不適格理由は、個人情報なので、患者様にお伝えすることはありませんのでご安心ください。
家族としてAさんを支える方法は色々あるので、その都度お伝えします。よろしくお願います。

提供意思あり・HLA検査実施

やっぱり検査をします。職場にも話をして、状況を分かってもらえました。前もって分かればシフトの調整や有給休暇で対応してくれると言ってもらえました。妻も型が合った時に細胞を提供する事に賛成してくれました。入院中は子供の世話などは妻の親に手伝ってもらおうつもりです。妻は前から自分と妹が話をしない事を気にしていて、話をするきっかけになれば良いねと言ってくれています。妹との関係は別に何も思っていないんですけど、型が合って提供できればと思っています。シフトの都合上、3日後の午後に検査をしに行きたいです。



3日後に来院されHLA検査を実施

総括

- HLA検査前の十分な説明が重要である。
- ドナー候補者自身と家族の理解状況を確認する。
- 提供の意思確認と家族の同意を得た上でのHLA検査が推奨される。
- ドナー候補者の提供できないという意味も擁護する。

※初回面談、HLA検査実施前の意思決定支援に着目した架空事例となっています。対応は施設によって異なります。
※実際のコーディネートについては「造血細胞移植ガイドブック」も併せてご確認ください。
※過去広報誌において様々なコーディネートを集めていますのでご参照ください。
https://www.jstct.or.jp/modules/occupation/index.php?content_id=14

九州大学病院 寄稿者 HCTC 櫻井 麻子様

ドナーの権利擁護について
ご寄稿頂きました。



ドナーの権利擁護・HCTCと多職種との連携

移植医療においてはドナーの「安全」の確保はもちろん、自発的な提供意思を担保するといったドナーの「権利」を守ることが重要です。なかでも血縁者間移植においては、患者とドナーが家族であるがゆえに特有の心理的葛藤が生じます。

ドナーに本当の気持ちを伝えて頂くには、面談場所や同席者の配慮など環境面を整えることも勿論のこと、ドナーと良好な信頼関係を築くことが最も大切なのではないかと考えます。

私は、病棟に所属しているため、入院中の移植を受ける患者とコミュニケーションを取りやすく、病状説明のため実際に来院されたドナー候補者との関係性を確認したり、情報収集を行うことができます。血縁ドナーの方との面談時には、「本当の気持ちを言っていること、守秘義務を守ること、ドナーになろうとなるまいと、どちらを選択してもサポートすること」を伝え、ドナーの本当の気持ちが尊重されるように努めています。そしてドナーの思いや社会的背景などを多職種と共有し、できるだけドナーの希望に沿った対応が行えるように調整しています。

骨髄バンクドナーの方は、コロナ禍で家族や骨髄バンクコーディネーターとの面会が制限されています。術前健診時から関わることで、入院期間中に少しでも安心感を与えられるような存在になればと考えています。またドナーの不安や要望を入院病棟ならびに採取担当部門の医師や看護師と共有し、安心して幹細胞が提供できるような環境作りを心掛けています。



前列左から2人目、山内 拓司医師（血液・腫瘍・心血管内科）
前列左から3人目、HCTC 櫻井 麻子様

富山赤十字病院



富山県で一番歴史が長い病院で、窓からは立山連峰を眺めることができます。

富山赤十字病院血液内科 移植100例記念パーティー



血液内科部長 黒川敏郎先生

2010年に富山赤十字病院に血液内科が開設し、2022年10月までの12年間で230件（同種140、自家90）の造血幹細胞移植を実施しました。2019年4月にカテゴリー1を取得しましたが、現在カテゴリー1に区分される137診療科の中で最小だと思います。ただし病院の規模が小さいので連携が取りやすく、互いを尊重するいいチームができあがっています。

MSW（医療ソーシャルワーカー）の寺林麻子さんもチームの重要なメンバーの1人です。寺林さんがHCTCを目指したきっかけは飲み会でした。2015年6月にバンクの骨髄採取があり、移植病院からHCTCの方が取りに来るという連絡がありました。HCTCの話を知りたいと思い、寺林さんに「バンクの骨髄を取りに来る女性と前日に食事をしたのだけど、僕と2人じゃ怪しむから寺林さんも来てよ」と声をかけたのです。「え～私でいいんですか。移植のこと何も知らないですけど…」と返事した寺林さんが、その後地域連携室での仕事の合間にHCTCを目指してくれ、2018年12月に認定されました。MSWは病院の中でもっとも一般の人に近い感性を持った職種だと思いますが、MSWのHCTCがいることでチームのバランスが強化されています。

これまでバンクからの移植は60件（BM 54、PB 6）、バンクへの採取は49件（BM 38、PB 11）しました。寺林さんは患者とドナーの間に入って登録から運搬まで色々な調整をしてくれていますし、TRUMPの打ち込みも手伝ってくれます。いつも静かに私たちを見守ってくれていますが、病院の外ではとても活発な女性です。

骨髄受け取り前には皇居、大阪城、熊本城などを一周していますし、スキー場でも急斜面を軽々と滑走している姿を見かけました。早くコロナが落ち着いて、寺林さんがまた採取病院のご当地コースを走れる日が来ることを待ち望んでいます。



前列左より、黒川 敏郎血液内科部長、望月 果奈子血液内科副部長
後列左より、中川 俊一郎医師、貫井 友貴医師、臨床研修医 瀬尾 僚太医師

HCTC 寺林 麻子 様

黒川先生に造血細胞移植コーディネーターにならないかとお声をかけていただいたのは2015年の5月頃でした。それまで、退院調整担当のMSWとして血液疾患の患者さんに関わったことはありましたが、骨髄移植とは何のためにどんなことをするのかほとんど分かっていない状態でした。ただ、経過の長い血液疾患の患者さん、ご家族と病棟の看護師さんとの信頼関係は端から見ていてもとても強いものを感じており、患者さんの良いことはともに喜び、厳しい状況は力を合わせて支える血液内科チームの一員となれることには強い魅力を感じました。

現在、私は患者支援センターに所属し、HCTCとしての業務とともに、外来患者さんや救急で受診された方の医療福祉相談や入院時支援等を行っています。HCTCも、外来を担当するMSWも院内でほぼ一人の状況で、またいずれも急にタイミングを逃さずに介入が必要なことがしばしば起きるため、自分自身の業務の整理やマネジメントが十分できていないのが悩みの種です。また、医療職ではないため医療面での知識や経験がどうしても不足すること、移植前後の一番つらい時期を患者さんのすぐ横で支えることができないこと、等もどかしく思うことはよくあります。

しかし、他院から紹介される患者さんや入院する患者さんは概ね患者支援センターを通過されるので、今後移植が必要になりそうな患者さんと早い段階からコンタクトを取ることができること、ソーシャルワーカーとしての視点から患者さん、ドナーさんやそれぞれのご家族を生活の視点から捉え、必要時には社会保障制度の利用についてタイムリーに情報提供し利用に向けて支援できること、院内外と連携を図る上で患者支援センターはたいへん動きやすい環境であること、など、今の私のポジションでコーディネーターを兼務していることの利点を感じることも多々あります。

ここ数年、より厳しい条件で移植の選択肢を提示されることが増えているように感じます。その中でも、患者さんやご家族、ドナー候補の方の思いを丁寧に伺い、皆が納得できる選択をできるように、そして厳しい中でも少しでもよい条件で移植へ向かえるよう、HCTCとしての経験を積み重ね、知識やスキルを磨く努力を怠らないようにしたいと思います。



HCTC 寺林 麻子 様

HCTC相談窓口 Q&A

2021年7月から2022年10月まで、HCTCや医師等の職種の方々から延べ52件のご相談が寄せられました。相談内容は、認定申請、認定更新、認定講習、認定研修、HCTCの雇用、倫理的問題、海外コーディネーターなど様々でした。

Q : HCTCとしての活動開始時期は認定講習I受講前でもよいですか。

A : 認定講習I受講前で構いません。活動開始時期は、HCTC が移植チーム内に設置され、介入の際にHCTCであることを患者やドナー、家族に説明して業務を開始した時期であることが必須です。コーディネーター件数は、業務を開始した時からの通算でカウントできます。

Q : カテゴリー1の診療科認定要件として、認定HCTCあるいはチャイルドライフスペシャリスト（以下、CLS）等の在籍が定められているが、CLS等（ホスピタルプレイスペシャリストを含む）の活動条件はありますか。

A : 特に移植に関する実務歴は定められていません。もし移植を受ける患児やそのドナーに特化した関わりを持たれていないような場合には、HCTC認定講習を受講していただくことをおすすめします。

Q : HCTCとしての勤務条件として常勤や非常勤などのきまりはありますか。

A : HCTCの雇用に関して、常勤、非常勤や何時間以上の勤務が必要などの規定はありません。なお、認定審査受験の際には、産休育休は活動期間には含まれませんのでご注意ください。

Q : 海外在住の血縁ドナー候補がHLA検査を希望しています。ドナーの在住先でHLA検査を受けるほうが良いか、採取キットをお送りして採取後国内に郵送してもらい調べるのが良いか、どちらでしょうか。

A : どちらでも可能で、患者さん、ドナーさんのご意向を伺って決めることになると思います。ドナー在住先で調べてもらうのは手間がかからずシンプルですが、検査結果の表示が国により異なる可能性があります。また、血縁者間同種造血幹細胞移植を行うと患者・提供ドナーのHLA検査費用が保険適用になりますが、海外で検査した場合その手続きが煩雑になる可能性があることをご留意ください。なお、検査の郵送料は原則患者さん負担になります。

HCTC相談窓口開設中

HCTC委員会では、皆様からのお悩み、ご相談にいつでも対応する相談窓口を設置しています。お気軽にご利用ください。 相談窓口 : hctc-sodan-jshct@umin.ac.jp



HCTC委員会からのお知らせ

HCTC認定講習 I 共通テキスト

「チーム医療のための造血細胞移植ガイドブック」 学会HP掲載中

HCTCの方のみならず造血細胞移植に関与されている全ての方々にHCTCの理念を共有していただくことを目的としています。ぜひご閲覧の上、各ご施設でご活用ください。

https://www.jstct.or.jp/huge/hctc_guidebook.pdf

第45回 日本造血・免疫細胞療法学会

- ・チーム医療 ドナーの擁護（コーディネーター）

◆HCTC委員会企画案内

- ・HCTCラウンジ : 2023年2月10日(金) 14時50分～ 会場開催
- ・HCTCワークショップ : 「HCTCの働き方を考える」
2023年2月11日(土) 8時45分～ ハイブリッド開催
- ・HCTC認定更新セミナー : 2023年2月11日(土) 13時30分～ ハイブリッド開催
- オンデマンド配信期間 : 2023年2月28日(火)～3月31日(金) 詳細は学会HPをご確認下さい。
- ※認定資格更新時は、認定更新セミナー(あるいはブラッシュアップ研修会)に2回以上の参加が必要です。

2023年度 認定講習・認定審査の予定

- ・認定講習 I
- ・認定講習 II
- ・認定審査

※開催日程や詳細は決定次第、学会HPでお知らせいたします。